

トンネル工

・ NATM（発破掘削・機械掘削）	1 4 3
・ NATM（支保工）	1 4 7
・ NATM（防水シート工）	1 5 1
・ NATM（覆工）	1 5 2
・ NATM（運搬路整備）	1 5 3
・ NATM（重機搬出入工）	1 5 4
・ NATM（作業開始準備）	1 5 4
・ NATM（高所作業）	1 5 5
・ シールド組立	1 5 6
・ シールド（掘進工）	1 5 7
・ シールド（セグメント組立）	1 5 8
・ シールド（坑内運搬工）	1 6 0
・ シールド（地上作業）	1 6 1
・ シールド（二次覆工）	1 6 2
・ シールド（解体）	1 6 3

本マニュアル（案）は、施工現場における事故発生要因の発見・対処に関して担当者を支援する目的で作成したものであり、個別の工事現場の安全対策を規定するものではない。

本来、施工現場における安全対策は個別の現場条件に合わせて対策されるものであるが、本マニュアルでは標準的な施工手順において一般的に執られている対策を取りまとめたものであり、安全担当者が更なる工夫を加えることで、一層安全性を向上させることが肝要である。

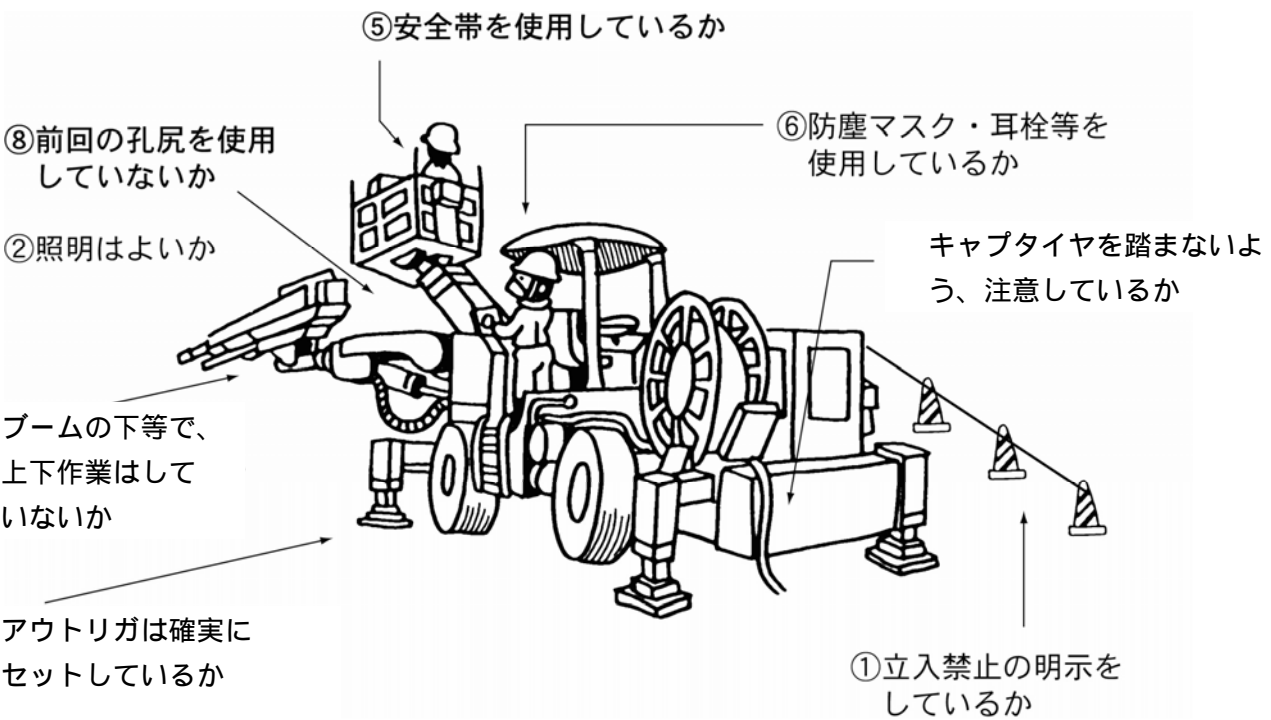
N A T M
(発破掘削 ・ 機械掘削)

確認年月日： _____

天 _____ 候： _____

記入者 _____

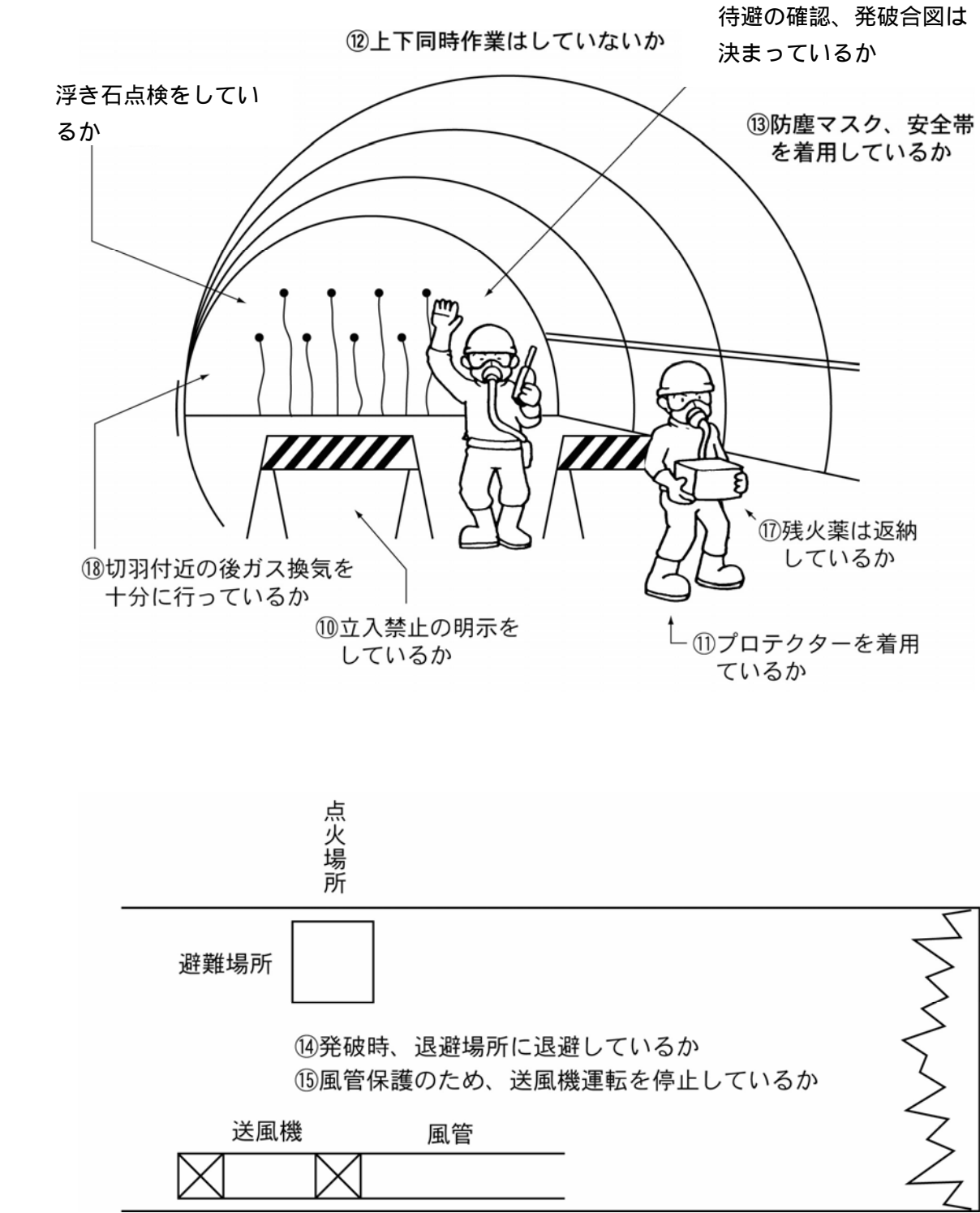
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 準備工	(1) 作業開始前点検	・ 作業範囲内への立入禁止措置をする。() (則 585)	☐	☐	☐	☐
		・ 作業箇所の照度は70ルクス以上とする。()	☐	☐	☐	☐
		・ ずい道等掘削作業主任者による点検を行う。	☐	☐	☐	☐
	(2) 穿孔機の移動・セット	・ 誘導方法を定め、誘導者の指示に従う。	☐	☐	☐	☐
		・ 走行方向の安全を確認する。	☐	☐	☐	
		・ 穿孔機械の始業点検をする。	☐	☐	☐	☐
		・ 電動式の場合にはキャブタイヤケーブルを踏まないように注意する。() (則 336、337、338)	☐	☐	☐	☐
		・ 作業開始前にアウトリガをセットする。()	☐	☐	☐	☐
		・ 防塵マスクを使用する。	☐	☐	☐	☐
		・ <u>安全帯を使用する。()</u>	☐	☐	☐	☐
2. 穿孔	(1) 装薬孔の穿孔	・ イヤーマフ、耳栓等の防音保護具を使用する。() (則 595～598)	☐	☐	☐	☐
		・ <u>上下同時作業は行わない。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・ <u>前回の発破孔を利用しての穿孔は行わない。() (火取則 53)</u>	☐	☐	☐	☐
		・ 孔尻が残っている場合は不発残留薬の有無を確認する。	☐	☐	☐	☐
		・ 穿孔中のロッドには近寄らない。	☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

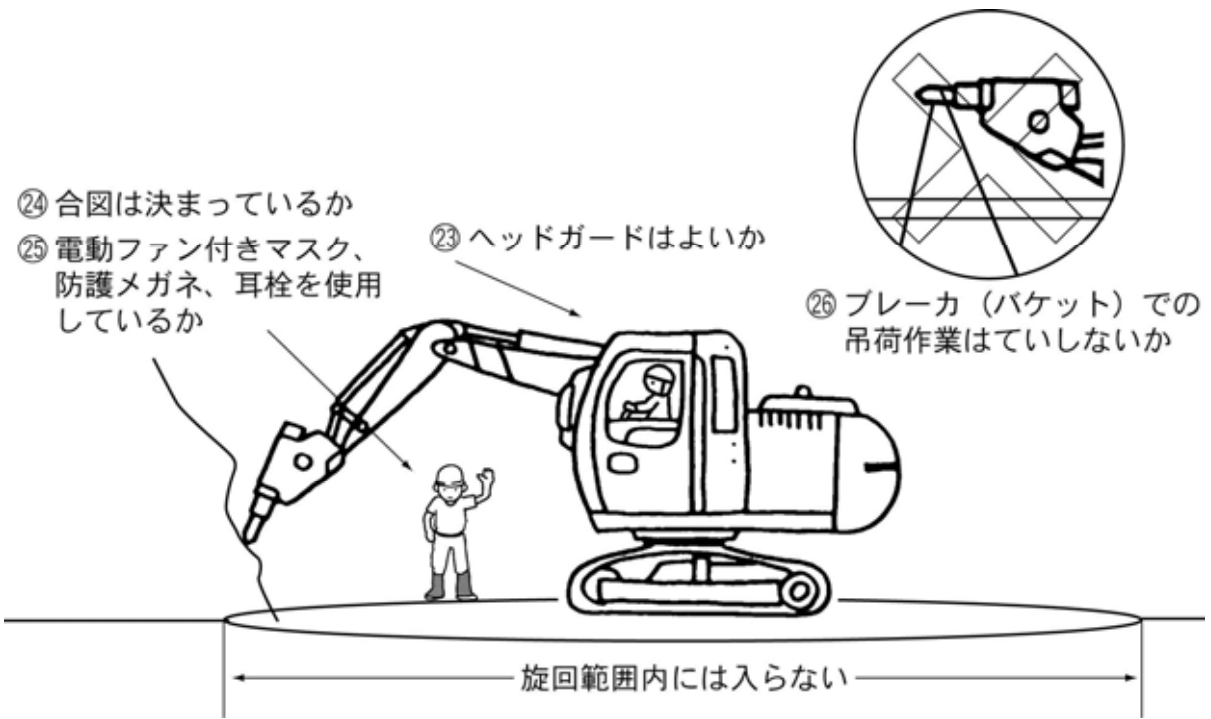
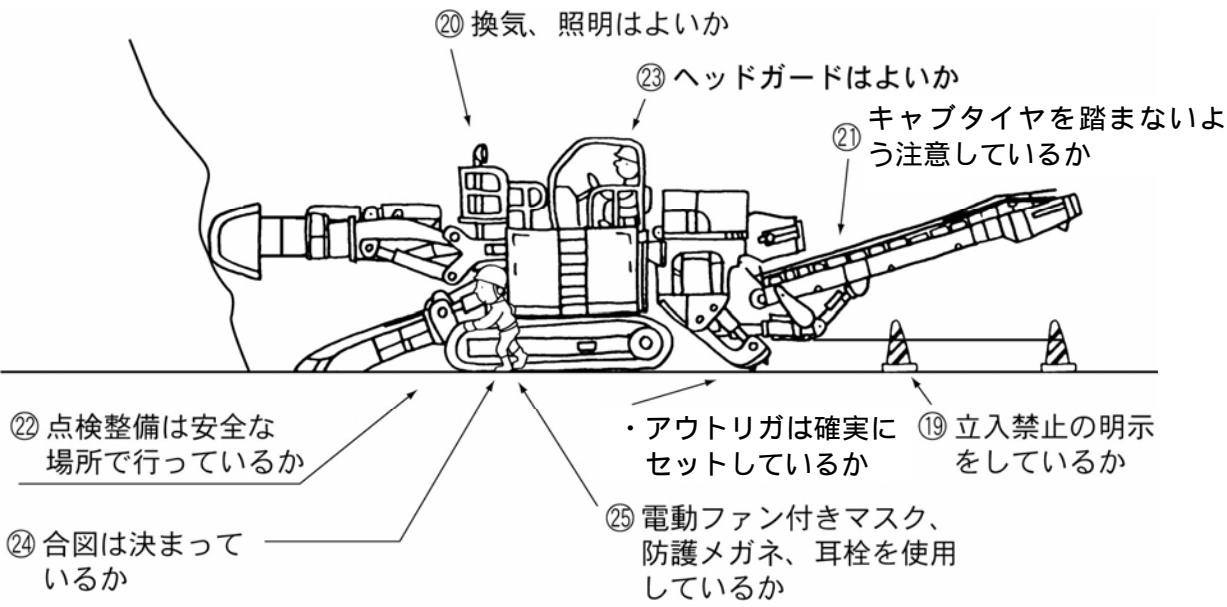
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
3. 装薬準備	(1) 切羽での装薬準備	・事前に切羽地山の浮き石点検と除去をする。() (則 384) ・作業箇所の照度は70ルクス以上とする。 ・電気発破の場合、漏洩電流が無いか確認する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
4. 装薬	(1) 切羽での爆薬装填	・見張員を配置し、関係者以外立入禁止措置をする。() ・装薬作業時は、肌落ち防護のバックプロテクターを着用する。() ・ <u>上下同時作業は行わない。()</u> ・ <u>穿孔と装薬の同時作業は行わない。</u> ・装薬は穿孔作業完了後実施する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
	(2) 高所作業での装薬	・ <u>防塵マスク、安全帯を着用する。() (則 387、582)</u> ・高所作業台の点検項目に従う。 ・安全帯を使用する。()	☐	☐	☐	☐
5. 発破準備	(1) 発破準備	・発破時には待避所へ退避する。() ・風管防護のため送風機停止などの適切な処置を取る。() ・見張員を配置し、関係者以外立入禁止措置を行う。 ・各種建設機械は、発破の影響を受けない位置に待機する。 ・切羽にて光電池テスターで導通を確認する。 ・点火場所にて抵抗値を測定し結線漏れの有無を確認する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
6. 発破	(1) 発破	・ <u>全員退避の確認後に、サイレン等の所定の合図を行い、点火する。() (火取則 53)</u> ・残留火薬の返納を確認する。() ・雷警報が出たら直ちに発破作業を中止し待避する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
7. 換気	(1) 換気	・発破後に送風機運転を再開し、切羽付近の後ガス換気を十分に行う。() ・ <u>発破後5分以上経過するまで切羽に立入らない。</u> ・発破指揮者による不発残留火薬有無等の点検を行った後に、次の作業に進む。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

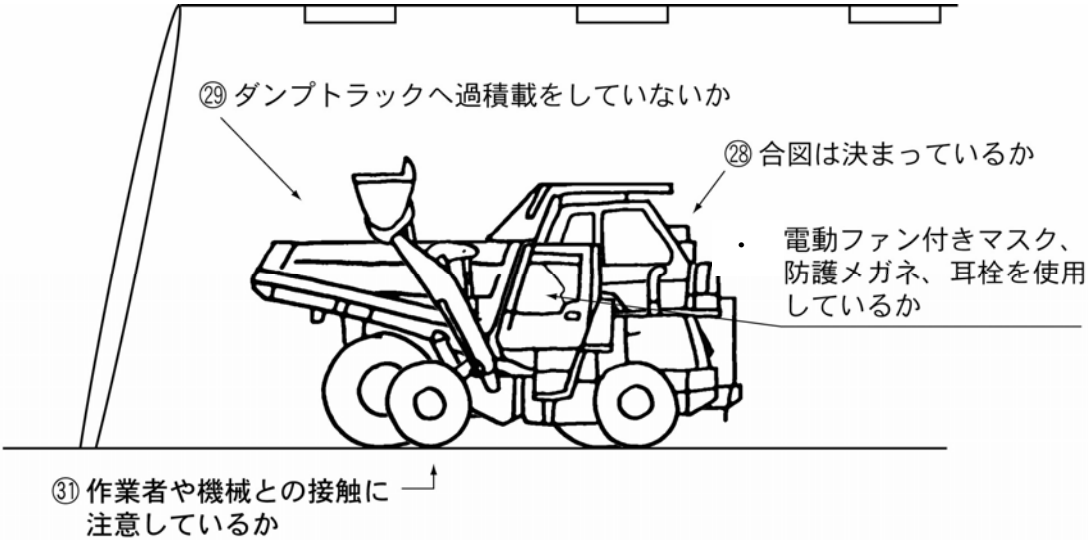
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
8. 機 械 掘 削準備	(1)作業箇所の整備・点 検	・作業範囲内への立入禁止措置をする。() ・作業箇所の照度は70ルクス以上とする。() ・切羽地山の浮き石点検と除去をする。(則 384)	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
	(2)掘削機の移動	・電動式の場合にはキャブタイヤケーブルを踏まない ように注意する。(・)(則 336、337、338) ・掘削機械の始業点検をする。(・) ・ 運転席は落石等に対して防護する。(・) ・走行方向の安全を確認する。 ・ 誘導方法を定め、誘導者の指示に従う。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
9. 掘削	(1)掘削機運転	・オペレータと作業指揮者との合図を確認する。(・) ・防塵マスク、防護メガネ、耳栓を使用する。(・) ・ブレーカによる吊荷作業を行わない。(・) ・アウトリガは確実にセットする。(・) ・ 切羽崩落等が発生しないように、地山を点検しながら運転操作をする。(則 384) ・粉塵の拡散を抑制するため集塵装置の運転を行い、 不十分な場合は散水等の措置も追加する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
10. 積込 み準備	(1) 作業箇所の整備・ 点検	・作業範囲内への立入禁止措置をする。() ・作業箇所の照度は70ルクス以上とする。()	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
	(2) 積込み機の移動	・走行方向の安全を確認する。 ・ 誘導方法を定め、誘導者の指示に従う。 ・重機周囲の安全確認を実施してから移動を行う。 ・電動式の場合にはキャブタイヤケーブルを踏まない ように注意する。(則 336、337、338)	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
積込み準備		・運転席は落石等に対して防護する。(・)(則 384) ・積込み機械の始業点検をする。 ・機械後方確認のためのバックミラー等を装備する。 ・作業関係者以外の立入を禁止する。()	☐	☐	☐	☐
11. 積込み	(1) 積込み機運転	・運搬車との作業の合図を確認する。(・) ・運搬車の能力以上のズリ積込みを行わない。(・)(則 151) ・防塵マスク、保護メガネ、耳栓を使用する。(・) ・岩塊積込みでは、車体からはみ出さないようにバランス良く積込む。 ・孔尻が残っている場合は、不発残留薬の有無を確認する。 ・粉塵の拡散を抑制するため集塵装置の運転を行う。不十分な場合は散水等の措置も追加する。 ・バックブザーを設置する。	☐	☐	☐	☐
12. 運搬準備工	(1) 運搬車の移動	・ 作業人や機械との接触に注意する。(・) ・誘導方法を定め、誘導者の指示に従う。 ・運搬車の始業点検を実施する。 ・待機は指定場所で行う。 ・運搬車周囲の安全確認を実施してから移動を行う。	☐	☐	☐	☐
13. 運搬	(1) 運搬車運転	・ 後進運転、方向転換等の際、安全を確認する。(・) ・運搬車の安全速度を厳守する。(・) ・運搬車の能力以上の積込みは行わない。(・) ・運転席を離れる時は駐車ブレーキを確実にかけて「キー」を抜取る。(・) ・ダンプ荷台が完全に下りてから走行する。(・) ・坑内信号、標識等の安全運行設備を整備する。 ・岩塊積込みでは、車体からはみ出さないようにバランス良く積込む。 ・運搬路が急勾配の場合には逸走防止設備を設置する。 ・粉塵の拡散を抑制するため集塵装置の運転を行う。不十分な場合は散水等の措置も追加する。 (2)ズリ捨て ・転落の可能性のある箇所では、車止め等の措置を講じる。	☐	☐	☐	☐

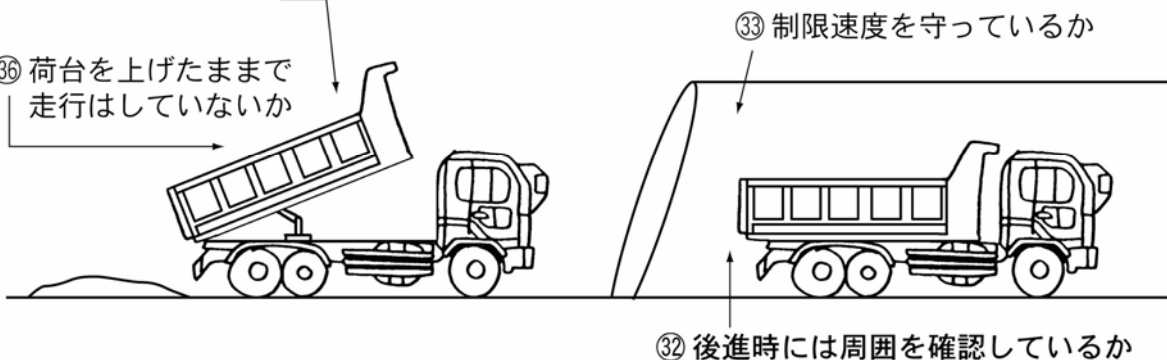


②⑨ ダンプトラックへ過積載をしていないか

②⑧ 合図は決まっているか

・ 電動ファン付きマスク、防護メガネ、耳栓を使用しているか

③① 作業人や機械との接触に注意しているか



③④ 過積載はしていないか

③⑥ 荷台を上げたままで走行はしていないか

③③ 制限速度を守っているか

③② 後進時には周囲を確認しているか



・ 運転席を離れる時は「キー」を抜取っているか

(記事欄)

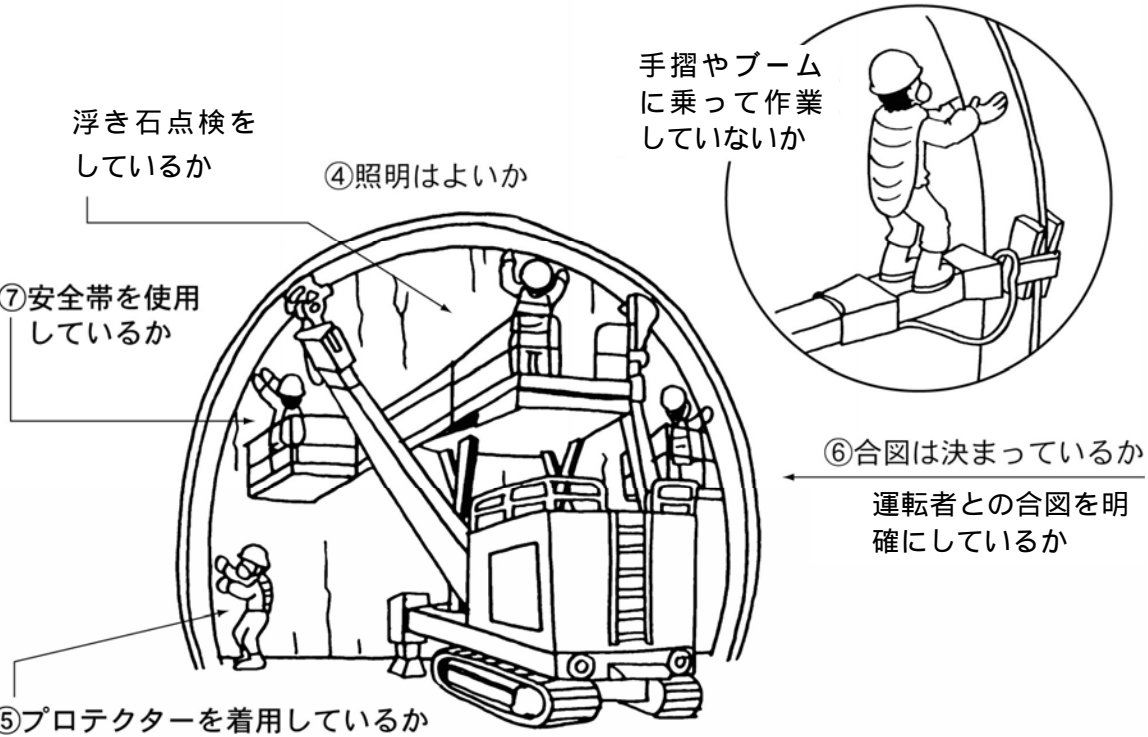
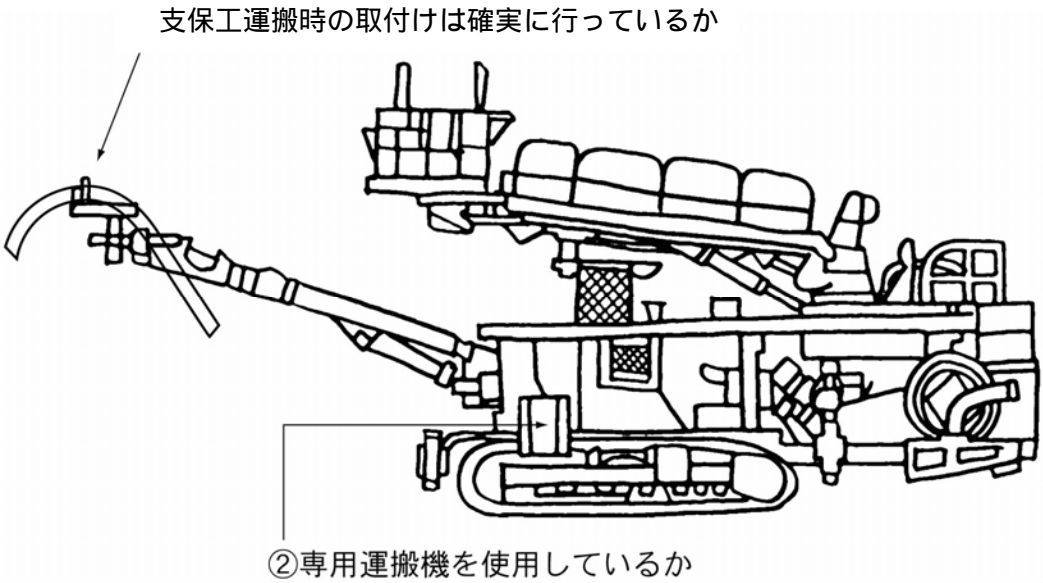
(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

N A T M （支保工）

確認年月日：
天 候：

記入者	
-----	--

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 鋼製支保工運搬準備	(1)重機移動	・ 走行方向の安全を確認する。 ・ 誘導方法を定め、誘導員の指示に従う。 ・ 玉掛けワイヤを使用する場合、ワイヤの点検を行う。	☐	☐	☐	☐
2. 鋼製支保工運搬	(1) 鋼製支保工運搬	・ 支保工吊り運搬時の取付けは確実にを行う。() ・ 支保工重量が大きい場合には専用運搬機を使用する。() ・ 使用機械の始業点検をする。 ・ 支保工を切羽付近に仮置きする場合は、切羽地山の点検を確実にを行う。	☐	☐	☐	☐
3. 鋼製支保工建込み準備	(1) 切羽の点検・整備	・ 事前に切羽地山の浮き石点検と除去をする。() (則 384) ・ 作業箇所の照度は70ルクス以上とする。() ・ 作業員はバックプロテクター等の保護具を着用する。	☐	☐	☐	☐
	(2)支保工根掘り	() (則 387、587) ・ 肌落ち等の恐れがある場合は、切羽へ吹付けコンクリートを打設する。 ・ 切羽監視員を配置して、作業中切羽の安全性を確認する。	☐	☐	☐	☐
4. 鋼製支保工建込み	(1) 鋼製支保工建込み	・ 作業員はバックプロテクター等の保護具を着用する。 () ・ 合図方法を確認する。() ・ 安全帯を着用する。() ・ 手摺やブームに乗って作業しない。() ・ 切羽監視員を配置して、作業中切羽の安全性を確認する。 ・ 支保工建込み用機械の始業点検を確実にを行う。 ・ オペレータと作業指導者との合図を確認する。 ・ 支保工吊込み時に支保工が滑り落ちないようにバランスを確保する。	☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
鋼製支保工建込み	(2) 高所作業での鋼製支保工建込み	・エレクター台車等の運転者との合図を明確にして、 確実に行う。()	☐	☐	☐	☐
		・エレクター台車等はアウトリガにより確実に固定して使用する。	☐	☐	☐	☐
		・高所作業台の点検項目に従う。	☐	☐	☐	☐
		・安全帯を使用する。	☐	☐	☐	☐
5. 吹付け準備	(1) 作業箇所の整備・点検	・作業箇所の照度は70ルクス以上とする。()	☐	☐	☐	☐
		・各種吹付け用機械・設備の始業点検を確実に行う。	☐	☐	☐	☐
		・切羽への立入禁止措置をする。	☐	☐	☐	☐
		・事前に切羽地山の浮き石点検と除去をする。() (則 384)	☐	☐	☐	☐
	(2) 吹付け機械移動	・ホース内の詰まり及び折れが発生しないようにホース配置を行う。()	☐	☐	☐	☐
		・誘導方法を定め、誘導員の指示に従う。	☐	☐	☐	☐
		・ <u>アウトリガのある吹付けロボットはアウトリガを確実に張出し固定する。</u>	☐	☐	☐	☐
		・マテリアルホース接続時に、不用意に切羽へは近寄らない。	☐	☐	☐	☐
		・配管作業時、保護手袋を着用する。	☐	☐	☐	☐
		・ホース、配管類が作業中に外れないよう、接続は確実に行う。	☐	☐	☐	☐
		・吹付け機の移動時キャブタイヤケーブルを踏まないように注意する。	☐	☐	☐	☐
		・急結剤投入作業は防塵マスク、ゴム手袋、保護メガネを使用する。	☐	☐	☐	☐
		・コンクリート吹付け機の吐出量、吐出圧の設定を適切に行う。()	☐	☐	☐	☐
		・吹付けロボットの操縦は安全な場所で行い、吹付けロボットの作動範囲に立入らない。	☐	☐	☐	☐
		・作業員は防塵メガネ、防塵マスク、カッパ等の保護具を着用する。()	☐	☐	☐	☐
		・切羽付近ではバックプロテクターを着用する。	☐	☐	☐	☐
		・粉塵が多い時は、必要に応じて粉塵低減剤、低粉塵吹付け工法、集塵機等を使用する。()	☐	☐	☐	☐
		・ <u>吹付け作業中や直後には剥落の恐れがあり、直下への立入を禁止する。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・切羽付近では十分な風量を確保する。	☐	☐	☐	☐
6. コンクリート吹付け	(1) 吹付け作業	・コンクリート吹付け機の吐出量、吐出圧の設定を適切に行う。()	☐	☐	☐	☐
		・吹付けロボットの操縦は安全な場所で行い、吹付けロボットの作動範囲に立入らない。	☐	☐	☐	☐
		・作業員は防塵メガネ、防塵マスク、カッパ等の保護具を着用する。()	☐	☐	☐	☐
		・切羽付近ではバックプロテクターを着用する。	☐	☐	☐	☐
		・粉塵が多い時は、必要に応じて粉塵低減剤、低粉塵吹付け工法、集塵機等を使用する。()	☐	☐	☐	☐
		・ <u>吹付け作業中や直後には剥落の恐れがあり、直下への立入を禁止する。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・切羽付近では十分な風量を確保する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐

吹き付け中のコンクリート
の下に入っていないか

浮き石点検をしているか

⑩照明はよいか
⑮換気はよいか

⑬吐出量、吐出圧の設定は適切か

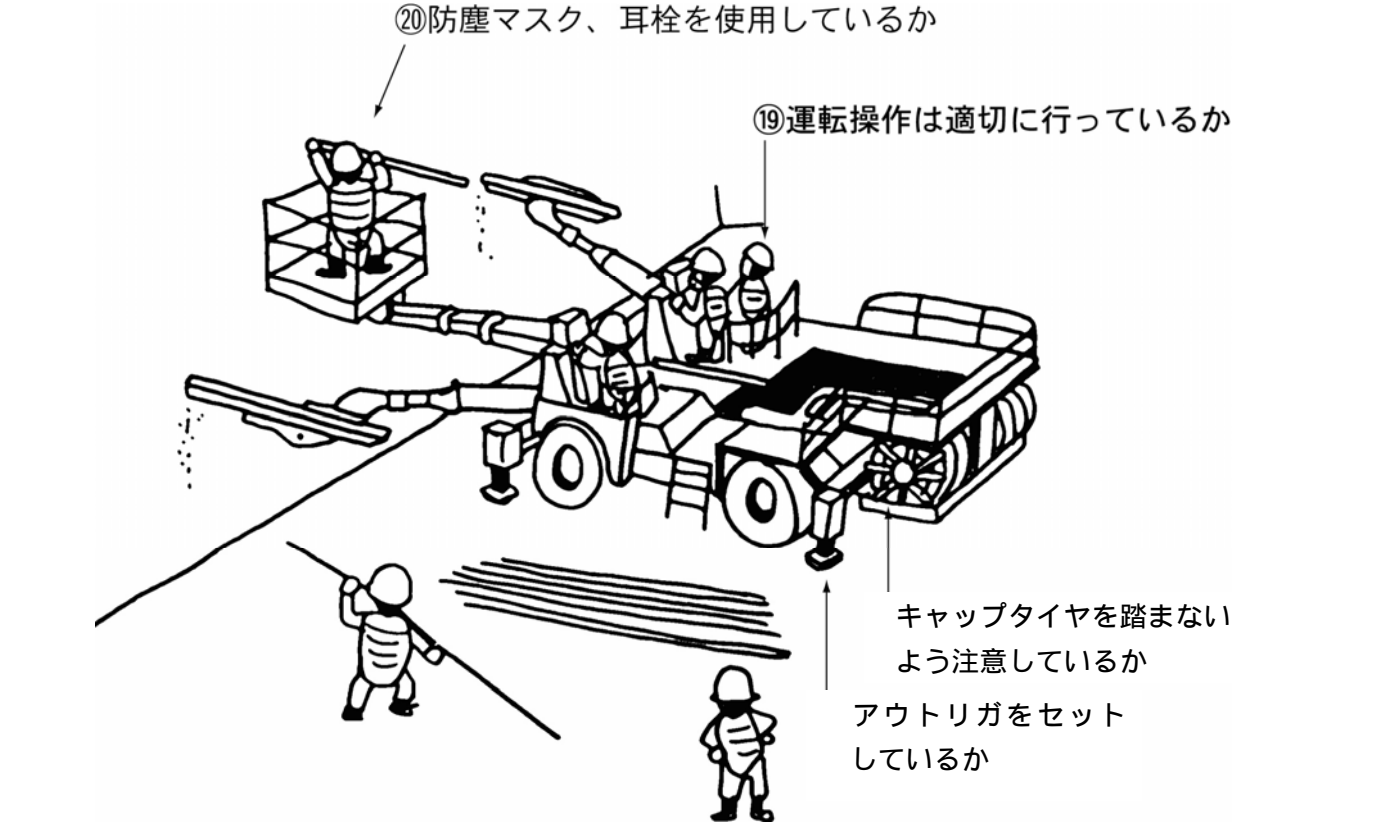
⑫ホース類は正常になっているか

⑭電動ファン付きマスク、
防護メガネを使用しているか

(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

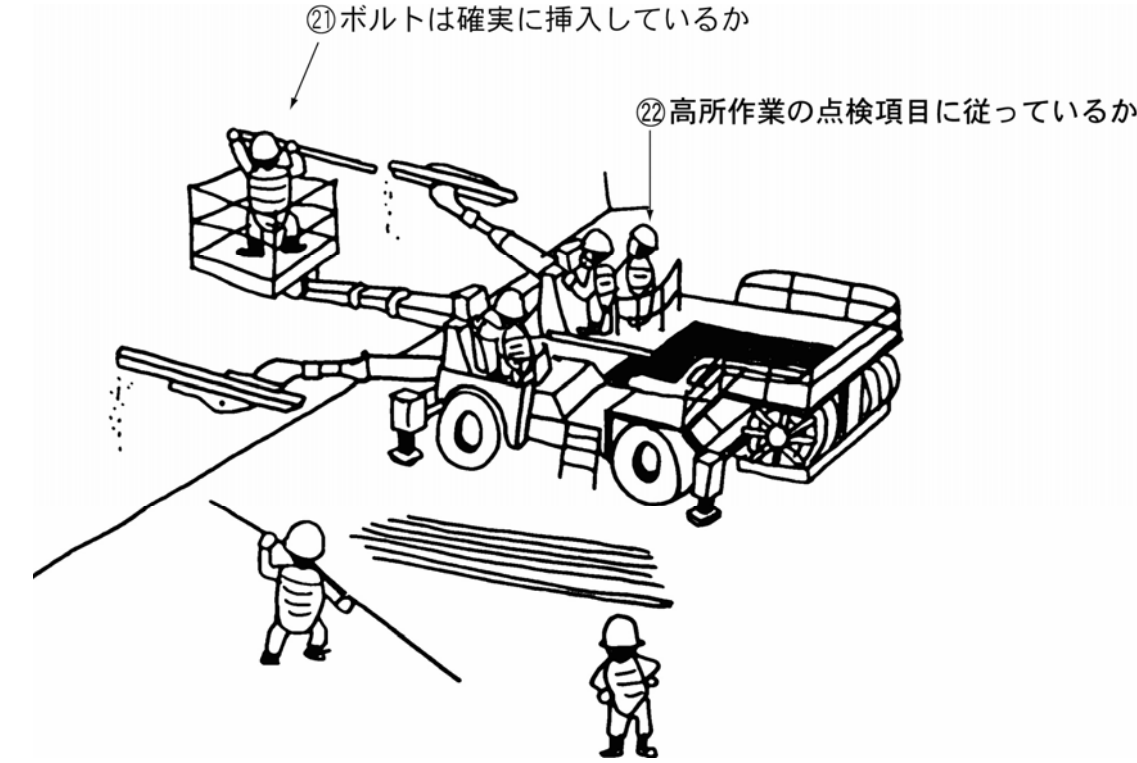
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
コンクリート吹付け	(2) 吹付け作業終了	・ 連結金具の破損、ホース内の磨耗に注意する。	☐	☐	☐	☐
		・ マテリアルホース閉鎖時の処置を行う場合は切羽に近接しない。	☐	☐	☐	☐
		・ エア圧力を抜く。	☐	☐	☐	☐
		・ 生コン車のバック誘導を確実に行う。	☐	☐	☐	☐
		・ 作業終了後には、使用機械設備の洗浄・清掃を入念に行う。	☐	☐	☐	☐
7. ロックボルトの準備	(2) ドリルジャンボの移動	・ 鋼アーチ支保工表面に付着した吹付けコンクリートは、剥落の危険性が高いので、吹付けの都度取除く。	☐	☐	☐	☐
		・ 事前に吹付けコンクリート硬化状況を確認する。	☐	☐	☐	☐
		・ <u>切羽への立入禁止措置をする。</u>	☐	☐	☐	☐
		・ 電動式の場合にはキャブタイヤケーブルを踏まないように注意する。() (則 336、337、338)	☐	☐	☐	☐
		・ 作業開始前にアウトリガを必ずセットする。()	☐	☐	☐	☐
8. ロックボルト孔の穿孔	(1) ボルト孔の穿孔	・ 走行方向の安全を確認する。	☐	☐	☐	☐
		・ 誘導方法を定め、誘導者の指示に従う。	☐	☐	☐	☐
		・ <u>運転者と作業員は連携を常に保ち、無理な機械操作は行わない。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・ イヤーマフ・耳栓等の防音保護具を使用し、切羽付近の作業においてはプロテクターを着用する。()	☐	☐	☐	☐
		・ ドリルジャンボの始業点検を確実に行う。	☐	☐	☐	☐
		・ <u>上下同時作業は行わない。</u>	☐	☐	☐	☐
		・ 穿孔中のロッドには近寄らない。	☐	☐	☐	☐
		・ 継ぎのみを行う場合は、穿孔機械の運転を一旦停止してから実施する。	☐	☐	☐	☐
		・ 吹付けコンクリートの剥落に注意する。	☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

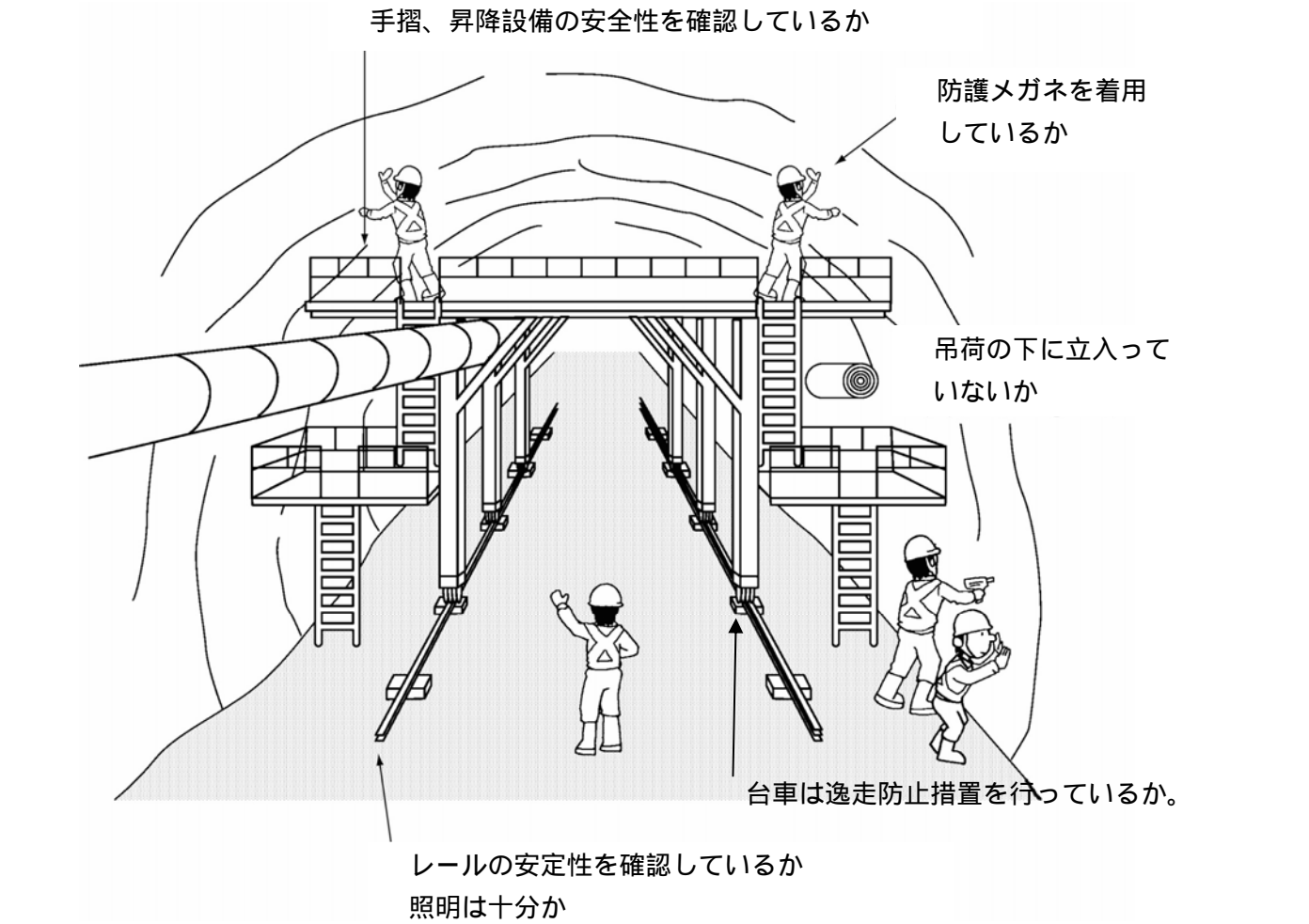
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
9. ロック ボルト 打設	(1) モルタル充填	・ 先手とポンプマンの合図を確実に行う。 ・ モルタル材料投入作業員は、防塵マスク、ゴム手袋、保護メガネ等を着用する。 ・ 作業終了後には、使用機械設備の洗浄・清掃を入念に行う。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
	(2) ボルト打設	・ ボルト挿入は人力で行うが、打設工具等を用いて確実な挿入を行う。(・) ・ 上向きボルト打設は落下防止金具等を使用して、落下防止を行う。 ・ ボルト挿入時に充填されたモルタルが溢れ出すことがあるため、保護メガネを着用する。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
	(3) 高所作業での 打設	・ <u>高所作業台の点検項目に従う。(・)</u> ・ 安全帯を使用する。 ・ 点検によりボルトが緩んでいる場合には、再締付けを行う。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
	(4) 打設後の点検					



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

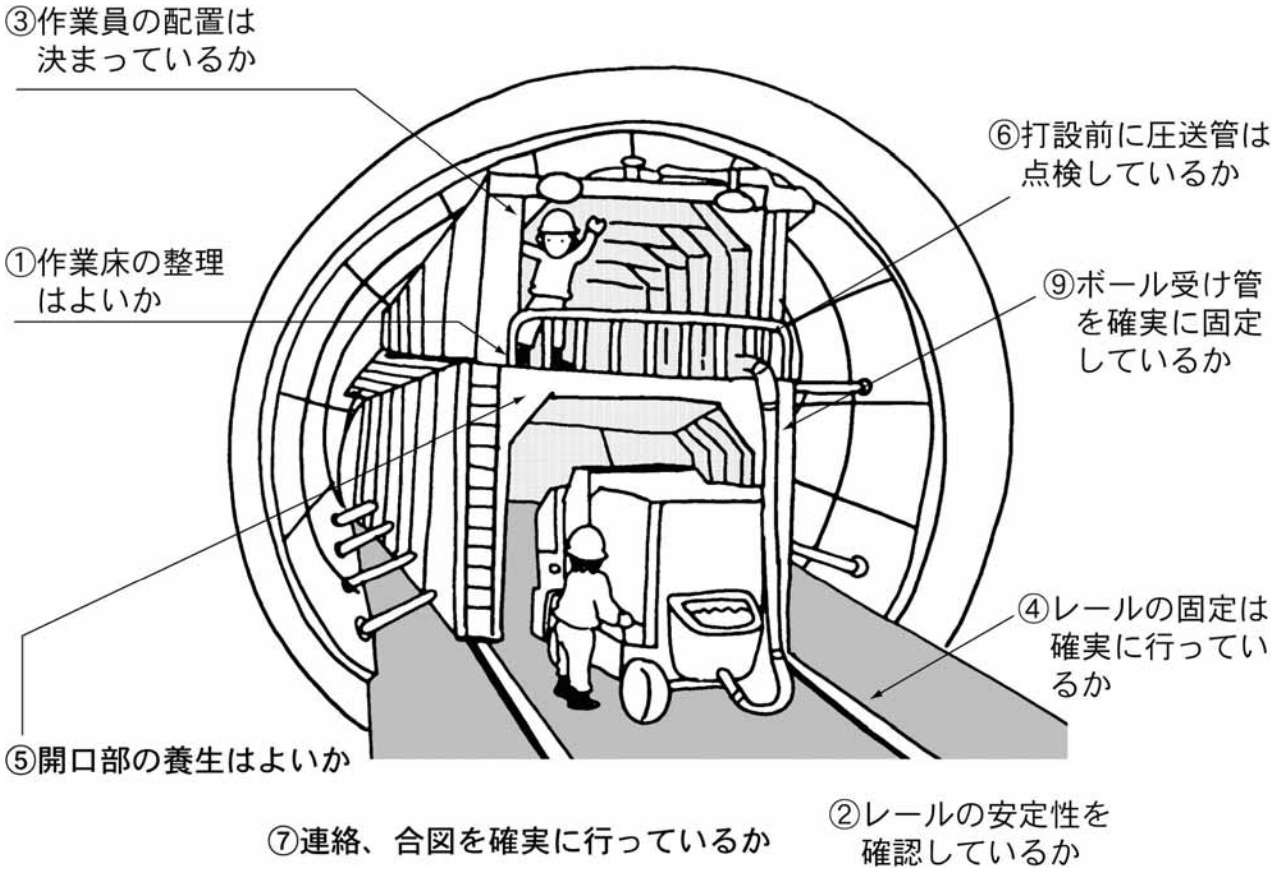
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. シート張り準備	(1) 作業箇所の整備・点検	・路盤及び枕木敷きレールや鋼製矢板敷きレールの安定性を確認する。()	☐	☐	☐	☐
		・作業箇所の照度は70ルクス以上とする。()	☐	☐	☐	☐
		・シート張り台車下部はダンプトラック等多くの車両が通過する。よって、シート台車に十分な照明や安全標識を設置する。	☐	☐	☐	☐
		・シート張り台車下部通行車両は、通過時に警笛等の合図を行う。	☐	☐	☐	☐
	(2) 台車の移動、セット	・レール走行式の台車は、レールクランプ等で逸走防止措置を行う。()	☐	☐	☐	☐
		・ <u>台車の手摺、昇降設備及び落下防止装置の安全性を確認する。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・移動・セット時には、作業員の配置及び移動の合図を明確にする。	☐	☐	☐	☐
2. 防水シート張り	(1) 防水シート張り	・エアガン取扱い時には、防護メガネを着用する。()	☐	☐	☐	☐
		・ <u>防水シートの作業床吊上げ時、吊荷の下へ立入らない。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・シート溶着器の加熱部分への接触による火傷に注意する。	☐	☐	☐	☐
		・ <u>吹付面へのシート固定用コンクリート釘打設エアガンの取扱いに注意する。</u>	☐	☐	☐	☐
		・作業台車周辺の換気状態に注意を払い必要に応じて送風を行う。	☐	☐	☐	☐
		・換気が悪い場合には、散水の実施あるいは換気装置を使用する。(則 602)	☐	☐	☐	☐
		・側壁部等シート台車から乗り出して行う作業は親綱等を設置し、安全帯を使用する。	☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

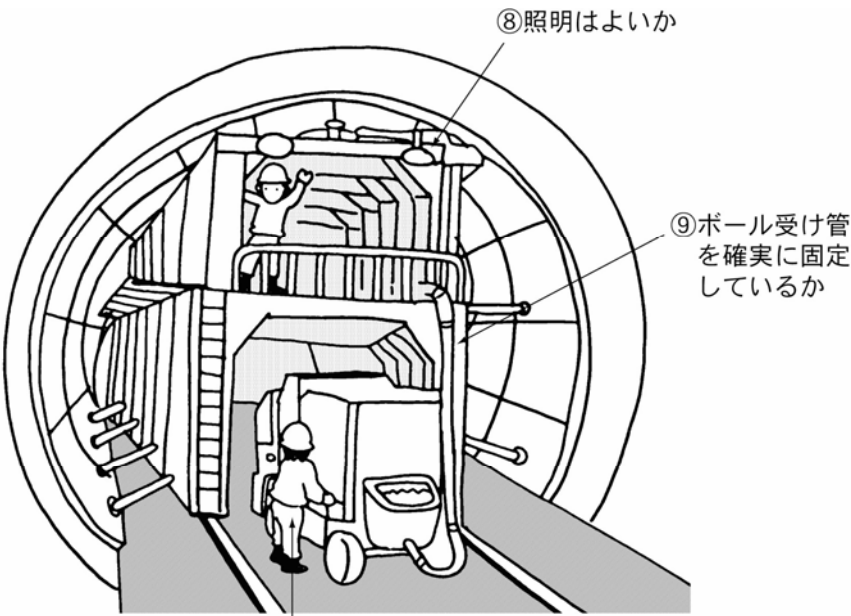
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 覆工コンクリート打設準備	(1) 型枠の移動、セット	・スライド型枠の手摺、昇降設備及び作業床等の安全を確認する。() (則 540、541) ・路盤及び枕木敷きレールや鋼製矢板敷きレールの安定性を確認する。() ・移動・セット時には作業員の配置及び移動の合図を明確にする。() ・スライド型枠のレールへの固定は、専用金具を使用して確実に行う。() ・<u>作業床開口部の養生を確実に行う。()</u> ・コンクリート圧送配管の接続は、耐圧ジョイント金具を使用して確実に行う。() ・関係者以外の立入禁止措置をする。 ・<u>ガントリー下への落下防止措置(巾木、ネット等)を確実に行う。</u> ・換気が悪い場合には、散水の実施あるいは換気装置を使用する。(則 602) ・セントル下部はダンプトラック等数多くの車が通過する。よって、セントルに十分な照明や安全標識を設置する。 ・セントル下部通行車両は警笛等の合図を行う。 ・妻枠材料、配管材料等は整頓し、荷崩れや落下のないようにする。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
2. 覆工コンクリート打設	(1) コンクリート打設	・生コン車のバック誘導は安全な場所から確実に行う。 ・<u>コンクリートポンプと打設箇所の連絡・合図は緊密かつ確実に行う。()</u> ・関係者以外の立入禁止措置をする。 ・コンクリートポンプの始業点検を確実に行う。 ・コンクリート打設の打上がり速度は適切な速度で実施する。 ・コンクリートの立上りは左右がほぼ均等とする。 ・吹上げ式による打設完了直前でのコンクリートの無理な押込みは避ける。	☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐
			☐	☐	☐	☐



（記事欄）

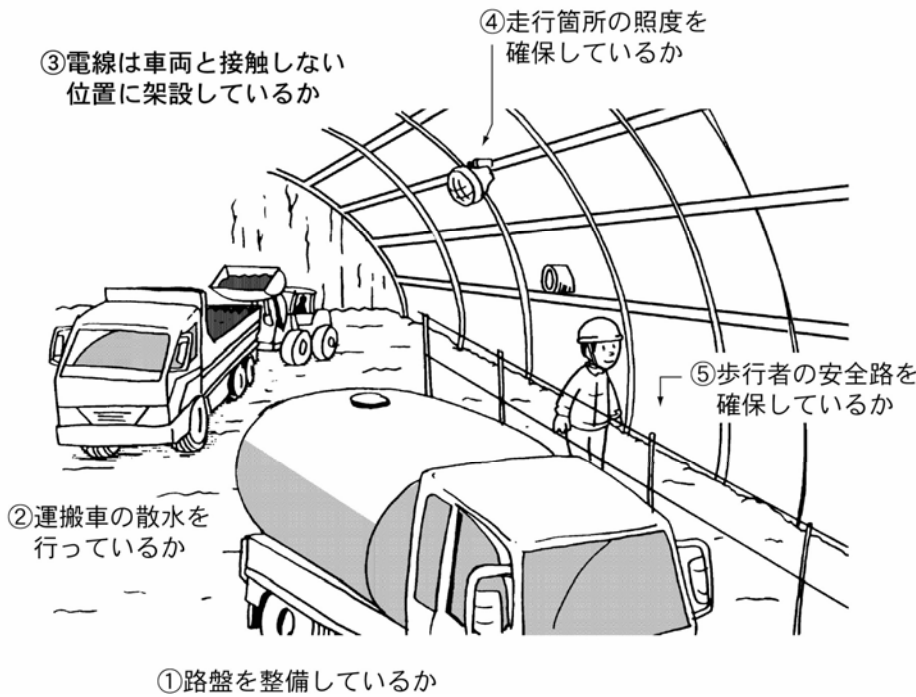
（記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事）

作業工程	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
覆工コンクリート打設		・作業箇所の照度は70ルクス以上とする。() ・打設箇所変更等による配管切断時には、管内圧力低下確認を先行する。 ・<u>配管切断時には、コンクリートが飛散する恐れがあるので、筒先は立入禁止とし、作業員は保護メガネ・保護手袋を着用する。</u> ・スライド型枠周辺の換気状態に注意を払い、必要に応じて送風を行う。(則 603) ・粉塵が多い場合には、散水の実施あるいは集塵装置を使用する。(則 582)	☐	☐	☐	☐
	(2)打設終了	・空気洗浄する時は、先端管にボール受け管を付け、確実に固定する。() ・セントル上の片付け、水洗い時は必要に応じてセントル下部への立入禁止措置を行う。	☐	☐	☐	☐



N A T M (運搬路整備) 確認年月日: 記入者

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 運搬路整備	(1) 走行路整備	・ 走行安定性を確保するため、路盤整備を実施する。 ()	☐	☐	☐	☐
		・ アーチ部・路盤部とも、湧水が多い箇所については湧水処理を確実に行って、路盤の泥ねい化を防止する。	☐	☐	☐	☐
	(2) 安全設備の整備	・ 運搬路で巻上げ粉塵が発生する場合は、散水を行う。()	☐	☐	☐	☐
		・ <u>車両回転場周辺の電線は、車両と接触しない位置に架設する。()</u>	☐	☐	☐	☐
		・ 走行箇所の照度は10ルクス以上、歩行者通路の照度は20ルクス以上を確保する。()	☐	☐	☐	☐
		・ 歩行者専用の安全通路を確保する。()	☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 重機搬出入	(1) トレーラによる 場内搬出入	・ 公道上の移動には道路交通法を遵守する。 ・ 移動に際しては、一般車両を優先する。 ・ 道路状況等により、適宜交通誘導員を配置する。	☐	☐	☐	☐
2. 重機組立・解体	(2) 組立・解体	・ 重機を路面上に降す場合に養生を行う。 ・ 誘導員は取り降ろし周辺での安全確認を行い、指示を明確に行う。 ・ クレーンを使用する場合には、クレーン作業の点検項目に従う。 ・ <u>旋回範囲への立入禁止措置をする。</u>	☐	☐	☐	☐



- ①作業内容、作業方法を確認しているか
- ②安全指示事項を確認しているか
- ③作業内容に伴うKY（危険予知）を実施しているか



- 作業指揮者、有資格者を
確認しているか
- ⑤健康状態をチェックしているか
- ⑥服装、保護具を確認しているか

（記事欄）

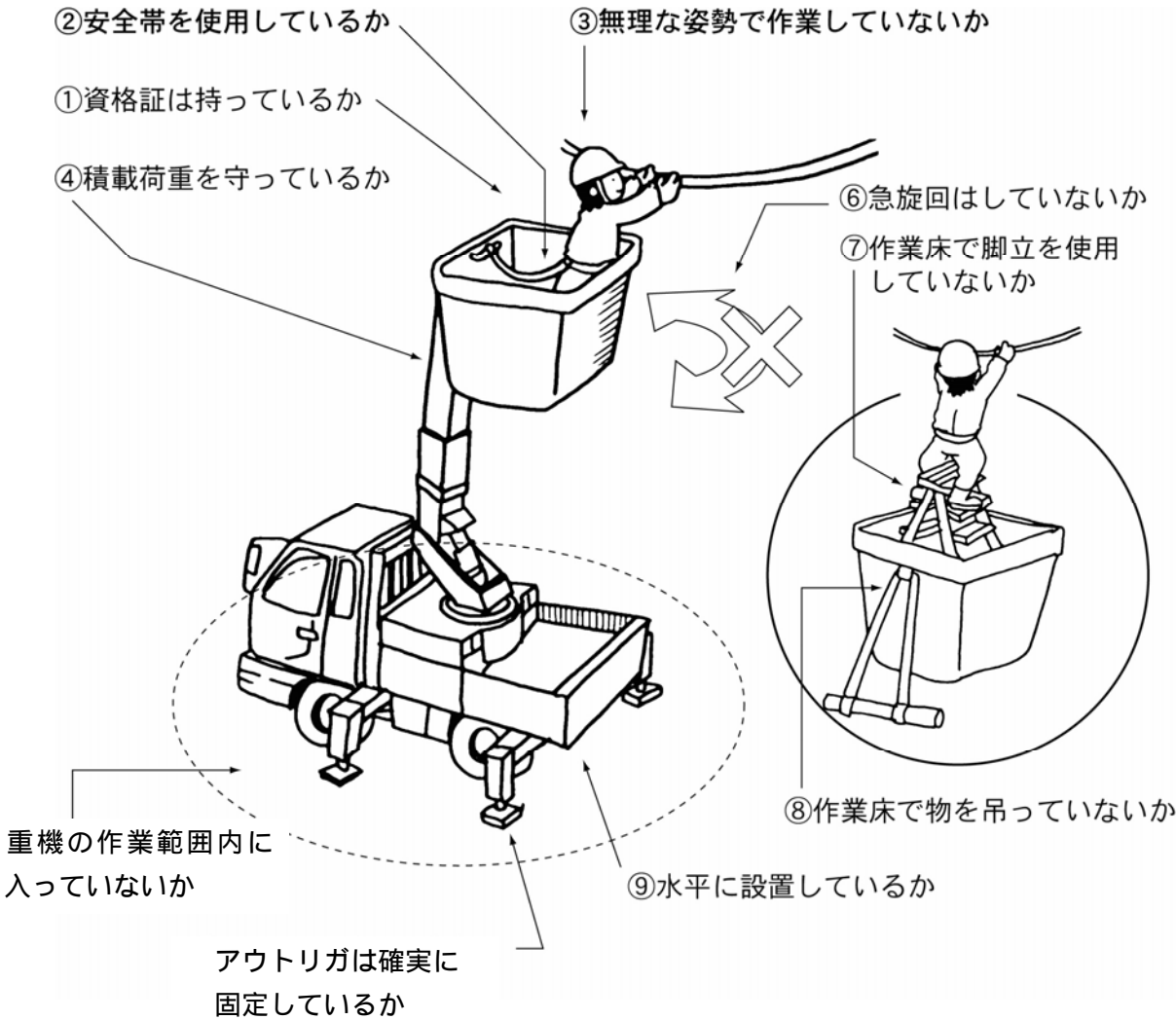
（記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事）

N A T M (高所作業)

確認年月日：
天 候：

記入者	
-----	--

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 高所作業	(1) 高所作業台の使用	・有資格者であることを確認する。()	☐	☐	☐	☐
		・安全帯を着用する。()	☐	☐	☐	☐
		・無理な姿勢での作業は行わない。()	☐	☐	☐	☐
		・積載荷重を必ず守る。()	☐	☐	☐	☐
		・バリケード・カラーコーン等を用い重機の作業範囲内への立入禁止措置をとる。()	☐	☐	☐	☐
		・急旋回で作業をしない。()	☐	☐	☐	☐
		・作業床で脚立を使用しない。()	☐	☐	☐	☐
		・作業床で物を吊らない。()	☐	☐	☐	☐
		・作業台車は水平に設置する。()	☐	☐	☐	☐
		・作業台車等はアウトリガ等により確実に固定する。()	☐	☐	☐	☐
		・他車両が通過するような箇所で作業を行う場合は誘導員の配置や作業範囲の明示等、接触防止に有効な措置をする。	☐	☐	☐	☐
		・高圧線等の接触に注意する。	☐	☐	☐	☐



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)